

米の価格は需要と供給のバランスなどで決まります!

米の価格が決まるしくみ

量が増えると価格が下がり、足りなくなると価格が上がる——。私たちの身の回りにある商品と同じように、米の価格も「需要と供給のバランス」などを基に決まっており、「生産にかかるコスト」も考慮していく必要があります。

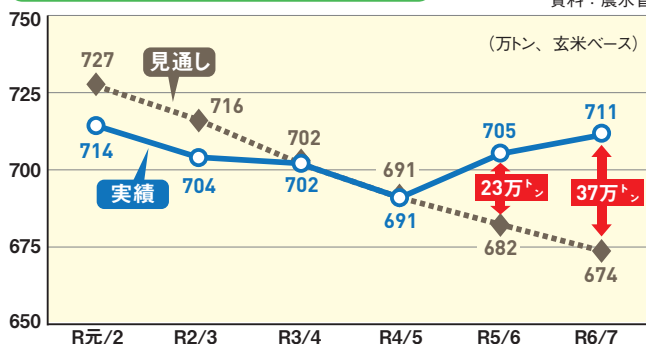
最近の米の価格高騰の背景には、①国による需要と供給の見通しが実際とズレたこと（農家は国が示す目安を参考に米を作っています）②米の不足感が強まり、米を確保する競争が激しくなったこと——などがあります。これらを含む複数の要因が重なり合い、今の米の価格となっています。

図1. 価格の決め方



図2. 農水省の需要の見通しと実績

資料：農水省



「JAが米価をつり上げている」は誤解です



農産物流通に詳しい
公益財団法人流通経済研究所
おりかさしゅんすけ
折笠 俊輔さん

NHKクローズアップ現代
など、メディア出演多数

近年、米の不足感があるなか、JA以外にも様々な集荷業者等が投機的な目的も含め、個別に農家を回り、より有利な価格を提示するなどして農家との取引を拡大しようとしています。

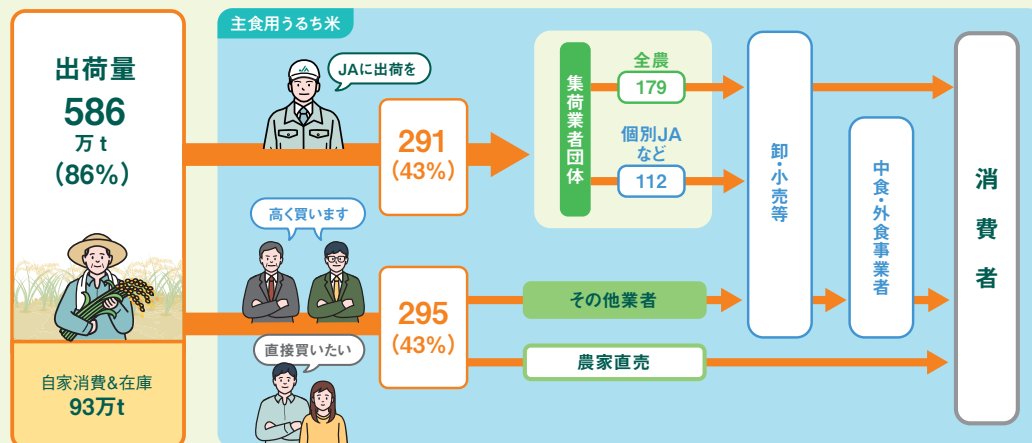
そのため、農家は販売先の選択肢が増え、

集荷競争が起こっています。こうした状況が、米の価格形成に影響を与えています。

米価は一般的な商品と同じように市場原理に基づいており、JAが米価を操作し、無理につり上げるようなことはできません。JAは年間を通じた安定供給を目指しています。

図3. 米の流通経路別流通量の状況 (令和6年産米)

(単位:万トン(玄米))



資料：農水省資料を基に作成。

注1：集荷業者団体には、全集連系を含む。 注2：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。

注3：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

米流通に関する
折笠さんの
詳しい解説は
こちら



耕そう、大地と地域のmiraい。 JAグループ

JAグループは米の安定供給に取り組んでいます

日本国内の多くの地域で、米は年1作が基本です。年1回の米作りで消費者の食卓や弁当、外食などの需要を満たすには、年間を通じて安定的な量・価格・品質で供給することが欠かせません。

もし米が安定供給されなかったら…？

時期によって量が変動しやすい



価格が乱高下しやすい



国産のお米が手に入りにくい



安定供給に向けたJAグループの取り組み例

複数年で契約栽培

生産者とJAの間での、3～5年などの複数年契約の取り組みを進めています。複数年にわたる安定的な販路を確保することで、農家は安心して生産に取り組むことができます。JAは外食業者や小売店に米を安定的に届けられます。

収量や品質の安定

異常気象の中でも収量^{※1}や品質を安定させるため、JAの営農指導により、技術向上を図っています。また、必要な時に必要な量を、そして品質にバラツキのない米を年間を通じて出荷するため、JAが共同乾燥調製施設^{※2}や低温倉庫を運営しています。

コスト削減や物流改善

JAグループは、低コストの肥料・農薬の普及や、共同購入コンバイン^{※3}の供給に取り組んでいます。物流でも、鉄道や船舶による輸送に力を入れ、より効率的な輸送に成果をあげています。

JAグループ
サポーター

林 修先生



全農号

※1 収穫した農産物の分量。品種や栽培方法、気象条件などが収量に影響します。

※2 農家が収穫した米を持ち寄り、一括で乾燥や選別、調製を行う施設です。

※3 JAグループが生産者の需要をとりまとめ一括で購入することで、購入価格の引き下げを実現します。

JAグループの様々な取り組みが、生産者が安心して農業を続けられ、
私たちが日本のお米を食べ続けられることにつながっています。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ